

診てもらって良かったといえる病院に

今週の活動から



郷土資料館では11月3日『あつぎあきのむし展』を開催中。(栗山議員)



活発なパネルディスカッション (10月23日) ヤンコミ

パネルディスカッション
「厚木市の地域医療を考える
市立病院に期待すること」
厚木医師会会長の笹生正人さんの
司会で話し合いが進みました。
最初に厚木保健福祉事務所の
鈴木仁一さんから「地域医療の現
状」について説明。
市民代表の三橋弘美さんからは
「これから同様の世代の高齢化で医
療の状況が変化していくだろうが、

10月23日(日)、ヤングコミュニ
ティセンターで「厚木市立病
院 市民医療フォーラム」創立
60周年を記念して」が開かれ
ました。山本裕康厚木市立病院
長から「高血圧はなぜ怖い？」
その予防法と治療法」の講演と
パネルディスカッションが行わ
れました。当日は、市民、病院
関係者など多くが参加しました。

厚木病院協会の
の太田和年さん
は「救急の受け
入れは、市内六
病院で輪番制で
行っている。小
児科は座間や綾
瀬からも来るこ
とがある。患者
が多い時は迷惑
をかけることも
あるが、不満は
病院協会に言っ
てくれれば対処

厚木保健福祉
事務所の鈴木
さんは「3次医
療は、県全体で
行う。小児医療
は自治体によっ
て不十分なところ
があり、隣接
する市の協力を
願っている」
と抱負が述べら
れました。

なかなか情報が入らない。PRの工
夫をしてほしい」との要望が出され
ました。
新しい市立病院について山本
院長から「60年前に県立病院として
スタートした時は、東海大学病院も
北里大学病院もなかった。大学病院
が整備され、県立病院の役割が変わっ
た。新病院は、医師・看護師の人数
を増やし、専門技術を向上させて、
日本で指折りの公立病院と言われる
ようにしたい」

司会から新病院への期待について
聞かれた三橋さんは「温かさの感じ
られる病院を期待したい。温かさと
は、施設、設備、エコ、そしてスタッ
フによる。いいサービスをするには、
働く人の環境も大切になると思う」。
「市立病院で診てもらってよかった」
と言われる病院になってほしい」と
期待を述べました。

風船爆弾はどこまで飛んだか

(旧陸軍) 登戸研究所を見て

川崎市多摩区にある明治大学の一角に「登戸研究所
資料館」があります。ここは旧陸軍の研究所で、秘密
戦(防諜・諜報・謀略・宣伝)の兵器の開発をしてい
ました。悪名高い731部隊とも連携していました。
研究所が行ったことを記録としてまとめ、大学とし
て歴史教育・平和教育・科学教育の発信地とするため
に整備し、そのまま資料館として整備し無料で開放し
ています。

く号兵器(電波兵器)は「怪力(ぐわいりきき)
電波」の頭文字。殺傷能力は得られず。

ふ号兵器(風船爆弾)は「風球に焼夷弾を搭載し、偏西
風に乗せてアメリカ本土を攻撃。太平洋沿岸(次城
島など)から発射し、2昼夜かけてアメリカ上空で
焼夷弾を落として自爆。約1万発が発射され、ハワ
イから米東海岸まで360発余りが着弾したと記録
されている。報告のなかったものを含めると実際は
一千万発は届いたであろう。勤労奉仕の女学生が、
和紙とこんにゃく糊でこの風船を作った。

生物兵器(殺虫兵器)は「昆虫の研究。
家畜に伝染病を蔓延させる細菌・ウイルスの研究。

旧陸軍登戸研究所の実態が分かるようになったのは、
高校生たちの平和研究でした。若い彼らの行動が関係
者の重い口をひらきました。さらに、明治大学が「戦
争の本質や戦前の日本軍が行ってきた諸行動の一端を、
冷静に後世に語り伝えていく」ために、「明治大学平
和教育 登戸研究所資料館」として開設しました。
科学が戦争のために使われ、最初は罪悪感を持って
いた研究者たちが、次第に麻痺していく恐れさが述
べられています。一人でも多くの方に見てほしいと思
います。

小田急向ヶ丘遊園駅から、バス明太正門前行きで終
点下車。

入館無料

水曜・土曜

10時～16時

Tel. 044

(9303)

資料館の看板前で(釘丸議員)

